

令和 6（2024）年度

運営に関する計画・自己評価

（最終評価）



大阪市立木津中学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○生徒は落ち着いた状況で学校生活を送ることができている。全国学力学習状況調査等の結果からも自尊感情や自己有用感の高まりが確認でき、このことがベースとなり今の学校の状況を作り上げている。厳しい生活状況の中ではあるが、授業規律は確立されており規範意識も高い。このような状況は、普段のきめ細かな生徒指導や学校行事・学年行事等の運営が土台となっており、引き続きこの状況を維持しつつ、取り組みを継続していく必要がある。

○課題としては、基礎学力の定着・基本的生活習慣の確立や家庭学習の定着などがあげられ、さらなる授業改善を行い主体的・対話的に深く学ぶ姿勢を育むとともに、しっかりと家庭と連携しつつ現状を改善していく取り組みが必要である。

○現在本校における生活指導の取り組みについては、生徒や保護者の理解と信頼を得ながらスムーズな指導体制が整っている。この現状を維持しつつ丁寧に対応し、いじめや問題行動が発生しないよう未然防止の取り組みを今後も教職員と地域関係諸機関で進めていく必要がある。

○支援が必要な家庭環境にある生徒が多く、継続的な支援と保護者も含めて相談しやすい地域関係諸機関との環境の整備やさらなる連携がいる。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和 7 年度の中学生チャレンジテスト・アンケートの結果において「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 82 %以上にする。（令和 5 年度 79 %「校内調査」）

○令和 7 年度の生徒のアンケートの結果において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目において、肯定的に回答する生徒の割合を、82 %以上になるように維持する。（令和 5 年度 79 %）

○令和 7 年度の生徒のアンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」の項目への肯定的な回答の割合を、令和 5 年度の水準（97 %）を維持する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査における各教科の平均正答率が、全国平均と 10 ポイント以上の開きが発生しないようにする。（令和 5 年度 11.1 ポイント）

○令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比 1.01 をめざす。

○生徒アンケートの結果において、「授業中はまじめに取り組んでいる」の項目への肯定的に回答する生徒の割合を、令和 5 年度の水準（90 %）を維持する。

○近年、外国からの転入生が多く、日本語日常会話もできない生徒も存在する。これら外国籍生徒の進路が保証できるよう、放課後学習や抜き出し指導を行い基礎基本的な学習能力の定着と日本語能力の向上に努め、100 %の進路保障をめざす。

【学びを支える教育環境の充実】

○生徒が授業日において、学習者用端末を 1 日 1 回は使用する割合を 100 %をめざす。ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く）

○「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を 90 %以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ①年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を92%以上にする。（令和5年度89%）
- ②年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ④生徒アンケートの結果において、「毎朝登校前に朝食を食べている」の項目への肯定的な回答の割合を、82%以上にする。（令和5年度79%）
- ⑤生徒アンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」・「正しい言葉づかいをするようにしている」の項目への肯定的な回答割合を令和5年度の水準（97%・90%）を維持する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- ②大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学生3年生の割合（4技能）を、55%以上にする。
- ③年度末の校内調査における「学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるでしょうか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を82%以上にする。（令和5年度79%）
- ④年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を65%以上にする。（令和5年度61%）

学校園の年度目標

- ⑤令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比1.01をめざす。
- ⑥生徒アンケートの結果において、「授業中はまじめに取り組んでいる」の項目への肯定的に回答する生徒の割合を85%以上になるように維持する。
- ⑦外国籍生徒の進路が保証できるよう、放課後学習や抜き出し指導を行い基礎基本的な学習能力の定着と日本語能力の向上に努め、100%の進路保障をめざす。

【学びを支える教育環境の充実】

- ①授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
- ②第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合が90%以上を継続する。

学校園の年度目標

- ③学校ホームページのアクセス数を、前年度比1.2倍以上にする。（令和5年度総アクセス数25,580・1日平均70.0）

3 本年度の自己評価結果の総括

年度目標の達成状況

【安全・安心な教育の推進】

- ①最も肯定的な「そう思う」と回答したのは76%だったが、肯定的回答の合計は96%だった。
- ②前年度の在籍比率14.7%に対して本年度は17.6%と増加したが、実人数は1名減となった。
- ③前年度の改善率5.5%に対して本年度は14%となり、改善率は上昇した。
- ④前年度の朝食喫食率79%に対して本年度は82%となった。
- ⑤「あいさつ」は前年度の97%に対して本年度は94%、「言葉遣い」は前年度の90%に対して本年度は95%となった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①中3は、対府比が国語で0.98から0.94へ、数学で0.95から0.88となった。（中2は結果待ち）
- ②前年度のCEFR A1レベル以上が38.8%に対して、本年度は69.7%と大きく上昇した。
- ③最も肯定的な「当てはまる」と回答したのは34%だったが、肯定的回答の合計は83%だった。
- ④最も肯定的な「好き」と回答したのは49%だったが、肯定的回答の合計は83%だった。
- ⑤本年度の体力合計点の対全国比は、男子で0.98、女子で0.90だった。
- ⑥前年度の肯定的回答90%に対して、本年度は93%となった。
- ⑦日々の日本語指導に努めた結果、3年生における進路保障は100%になる見込みである。

【学びを支える教育環境の充実】

- ①生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数は数日に限られたが、日々の活用率は、前年度の25%から44%に上昇した。
- ②12月末時点で、基準2を満たす教職員の割合が前年度の75%から84%に上昇した。
- ③1月末時点で、総アクセス数が31316（1日平均104）で、前年度比1.42倍となっている。

自己評価の総括

・本年度の全国学力・学習状況調査の結果より、大阪府及び全国平均を下回ったものの、国語と数学の対全国比は令和5年度と比較して、国語は7p・数学は10p改善した。無回答率は、国語・数学ともに2.2p改善した。国語は、「我が国の言語文化に関する事項」の領域において5.5p上回り、「情報の扱い方に関する事項」も全国平均に近い水準であった。問題演習や作文練習などの機会を増やし、どのように読み取るか、書くかといった「正しい形での答え方」を習得し、未読の文章にも対応できる力を育成していく。数学は、「データの活用」の領域において10.1p下回った。演習問題の機会を増やし問題文や表をどのように読み取り、どのように解答へ導くのかといった過程を大切に、応用問題等で活用できる対応力を育成していく。

・生徒質問紙において、テレビゲームや携帯電話（スマートフォン）を使う時間が多いことがわかる。また、家庭学習の習慣が十分ではなく、休日に全く勉強しない（34.3%）・1時間より少ない（14.3%）を合わせると48.6%となり、自ら学習に取り組む意識を持たせる指導が必要である。しかし「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」・「人が困っているときは、進んで助けていますか」・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的な回答はそれぞれ97.1%・97.2%・100%であった。

・不登校や教室に入りにくい生徒に対して個別相談やカウンセリング・家庭訪問を実施するなど丁寧な対応を行っている。また、欠席の続いている生徒に対しては、学習内容を補充するために個別に課題を提供したり、一人一台学習者用端末を活用したつながり作る取り組みを行っている。

・補充学習・放課後学習会・中3集中学習会や個別学習指導・分割授業等、個々の状況に応じたきめ細かい指導をさらに継続していく。

・朝食の喫食率が微増傾向となっている。「食」の大切さを指導した成果であるが、さらに喫食率を高めるため、指導方法を改善し家庭と連携して啓発していきたい。

・生徒アンケートの「あいさつをきちんとしている」の項目では、肯定的な回答が94%、また「正しい言葉づかいをするようにしている」の項目では、肯定的な回答が95%と高い水準となっている。

・中国、フィリピン等からの来日・外国籍の生徒や保護者が日本語を苦手とする生徒が在籍しており日本語での理解や表現が不得意な生徒が多く、これらの生徒を日本語教室や識字教室への橋渡しをすることや、自分の気持ちを表現できる環境を作り地域関係諸機関との結びつきを構築して日本や将来の生活が安定するよう、全教職員が関わり合いを持って関係づくりをしている。

大阪市立木津中学校 令和6（2024）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	
A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標（最重要目標1 安全・安心な教育の推進）	達成状況
<p>①年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。（令和5年度89%）</p> <p>②年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>③年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>④生徒アンケートの結果において、「毎朝登校前に朝食を食べている」の項目への肯定的な回答の割合を、82%以上にする。（令和5年度79%）</p> <p>⑤生徒アンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」「正しい言葉づかいをするようにしている」の項目への肯定的な回答割合を、令和5年度の水準（97%・90%）を維持する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 いじめへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間を振り返って、教育相談、懇談、いじめのアンケート調査、相談申告機能を実施する <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週末に「1週間を振り返って」のアンケートを実施し、生徒が1週間どのように過ごしたのかを把握する。あいさつ、言葉使いについても項目を設定し、規範意識を高める。教育相談と懇談を全学年年2回以上実施する。 ・生徒から悩みの相談や、相談申告機能での申し出があれば、随時対応する。 ・いじめに関するアンケートを年3回以上実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。 	B
取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 「1週間を振り返って」を毎週末に実施し、トラブルを未然に防いだり、早期に対応している。5月の「いじめについて考える日」の前後にいじめアンケートを行い、随時対応を行った。また、相談申告機能での申し出が5回あり、随時対応した。教育相談では、生徒の様子を把握し、日々の指導に繋げることができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 教育相談や懇談を定期的に行うことにより、生徒の困り事や悩み事を話しする機会を作ることができた。また、アンケートも行うことにより、生徒が抱えている問題の早期発見にもつなげることができた。来年度も引き続き取り組んで、問題の事前把握や初期対応ができるように心がけていきたい。</p>	

取組内容②【基本的な方向 1 児童虐待等への対応】		B
・教職員対象の研修会で生活指導の情報交換会を設け、不登校生徒、虐待の恐れがある生徒の把握、対応策を計画する。また、普段の生活指導の課題を見いだし改善に努める。		
・関係諸機関と連携をはかる。(月に1回のスクリーニング会議、要対協の開催、警察OBの巡回訪問相談会)		
指標		
・月2回以上の教職員の研修会、情報交換会を設け、気になる生徒の実態を把握する。教職員と、生徒との深い信頼関係を維持させるため普段の学校生活から正しいあいさつ、言葉づかい、コミュニケーションの工夫などを実践しているか研修会の中で確認する。		
・またSCや関係諸機関など、積極的かつ綿密な連携をはかり、生徒が専門的な指導を受けられる体制を整えること、早期での対応ができることに努める。		
取組の進捗状況の結果と分析		
②	きめ細やかな生徒情報交換を行った。そのため、職員が学年を越えて生徒の実態を把握し関わることができた。また、外部と会議を行い、関係諸機関と綿密な連携をはかることで、学外での生徒の家庭状況を知ることができた。課題を残す部分はあるが、連動して対応することができた。	
次年度への改善点		
②	積極的に関係諸機関と連携を図り、協力できた。自傷行為やOD等を行う生徒への対応に難しさを感じる部分もあったが、会議等で教職員間の生徒情報交換を細かく行い、実態の把握や対応に当たることができた。来年度も学校や生徒の実態に合わせて適宜研修会を開く。	
取組内容③【基本的な方向 1 防災・減災教育の推進】		B
・「消防計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。		
指標		
・火災避難訓練（5月）・区役所との防災訓練（7月）・大阪880万人（地震・津波）訓練（9月）を実施する。		
取組の進捗状況の結果と分析		
③	「消防計画」「安全対策マニュアル」に基づき、火災避難訓練を実施し、迅速、冷静、安全に行動することができた。中学生の防災訓練では、はじめて起震車で地震を体験することができた。また、大阪880万人訓練においては、特に津波に対する防災の意識を高めることができた。	
次年度への改善点		
③	「消防計画」「安全対策マニュアル」に基づき、火災避難訓練・中学校の防災訓練（浪速区役所主催）を実施し、迅速、冷静、安全に行動することができた。また、浪速区ハザードマップを配布し、より一層の防災の意識を高めることができた。大阪880万人訓練においては、特に津波に対する防災の意識を高めることができた。	

取組内容④【基本的な方向 1 安全教育の推進】		B
・情報モラル教育について、教科の学習や外部講師を招きSNSなどの被害から生徒を守る。		
指標 ・年1回以上警察によるスマートフォンの取り扱い、SNS使用上の注意についての講演会を開く。必要であればその都度外部講師を招き、指導に役立てる。また、リーフレットの配布や、各教科の学習、集会の中でSNS上の事例を紹介し、予防策、解決策を中心に情報モラル教育の充実を図る。		
取組の進捗状況の結果と分析		
④	浪速警察による非行防止安全教室を開催してSNSの使い方について指導を行った。保護者（新入生）への協力依頼は新入生向けの説明会や入学式で行った。生徒への事前指導は全校集会や学年集会で話をし、事後指導は事案が起きてからにはなるが、その都度丁寧な指導を行った。しかし、SNSが絡む事案は起きているため、引き続き指導を行う。	
次年度への改善点		
④	SNSが絡む生活指導事案は年々増加している。0にすることは難しくても増加を食い止められるよう、来年度も引き続き外部講師を招いての研修会を行い、教職員のスキルアップを図る。また、家庭と連携して生徒と向き合えるよう、保護者対応の知識も向上させていく。	
取組内容⑤【基本的な方向 2 道徳教育の推進】		B
・道徳教育を推進することを通して、自己の生き方を考え、自他を大切にし、よりよい集団生活を送る基本となる道徳性を養う。		
指標 ・授業実施後の生徒の感想より、各内容項目についての理解が深まっているか、また実践したい意欲に結びついているかを確認する。		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑤	教科書題材を読みながら、生徒たちが自己を振り返り、各内容項目について理解を深めることができた。引き続き残りの内容項目に取り組んでいく。	
次年度への改善点		
⑤	生徒たちが自己を振り返り、各内容項目について理解を引き続き深められるように教科題材を理解し、生徒たちに伝えていくように心がける。	
取組内容⑥【基本的な方向 2 キャリア教育の充実】		B
・キャリア教育の充実として、社会情勢に配慮した形で職業講話、職場体験学習等を行い、自らの進路について主体的に考える姿勢を育てられるよう、計画的に進路指導を行う。また、キャリアパスポートにより小学校から系統立てた進路指導ができるように配慮する。		
指標 ・進路学習実施後の生徒アンケートで、「有意義であった」「毎日の学習が大切だ」という肯定的な回答を75%以上にする。		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑥	各学年の取組みについて、ほぼ計画通り実施し、生徒のアンケートでも肯定的な回答が得られた。1年生から出前授業や進路学習を行い、進路への意識を高めさせることができるように指導している。	
次年度への改善点		
⑥	生徒たちが自己の進路に関心を持ち、より主体的に考えることができるように3年間を通して体系的に進路学習を行いたい。	

取組内容⑦【基本的な方向 2 人権を尊重する教育の推進】		B
・日々の教育活動のなかでの人権を尊重した生徒への関わり、また各学年の実態に応じて各人権課題について学習を深めることを通して、人権尊重の学校づくりを進める。		
指標 ・各学年とも「にんげん」集中実践を終えた後に生徒に対してアンケートを行い、授業に対する満足度や肯定的な評価を指標とする。		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑦	各学年とも計画的に「にんげん」実践を行い、実態に応じた人権学習やなにわ子ども人権文化祭に取り組むことで、生徒たちの人権尊重の精神を育んでいる。	
次年度への改善点		
⑦	コロナなど社会の変化に伴い、新たに生まれる差別にも早期対応、かつ未然防止できるように学校生活全体を通しての人権教育を今後も推進していく。	
取組内容⑧【基本的な方向 2 多文化共生教育の推進】		B
外国にルーツを持つ生徒が普段の授業で困らないよう、日本語指導や基礎・基本的な学習能力の向上に努める。		
指標 ・海外のルーツを持つ生徒に対して、週 1 回以上の放課後学習や授業中の抽出指導などを行い、本人が希望する高校に進学ができるよう進路指導を含め、保護者の理解が得られるよう努める。		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑧	日本語教室でN4の取得をめざし、抽出授業やJSLなどをすすめている。また、安心安全な学校生活のために、リモート通訳なども積極的に利用している。	
次年度への改善点		
⑧	抽出指導による日本語の指導や、放課後学習による学習補助を行い、より一層過ごしやすい環境をつくるように努める。	

大阪市立木津中学校 令和6（2024）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	
A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標（最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上）	達成状況
<p>①中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。（令和5年度「国・数」3年0.85・0.81、2年0.98・0.95、1年0.82・0.71）</p> <p>②大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学生3年生の割合（4技能）を55%以上にする。（令和5年度38.8%）</p> <p>③年度末の校内調査における「学級の生徒との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。（令和5年度79%）</p> <p>④年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を65%以上にする。（令和5年度61%）</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>⑤令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比1.01をめざす。</p> <p>⑥生徒アンケートの結果において、「授業中はまじめに取り組んでいる」の項目への肯定的に回答する生徒の割合を、令和5年度の水準（90%）を維持する。</p> <p>⑦外国籍生徒の進路が保証できるよう、放課後学習や抜き出し指導を行い基礎基本的な学習能力の定着と日本語能力の向上に努め、100%の進路保障をめざす。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <p>少人数授業を基盤にTTや習熟度別少人数指導など個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・相互に授業を参観する機会を年に2回以上開き、共通理解や指導力の向上を図る。</p>	B
取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 個に応じた指導を実施し、基礎・基本の定着を図っている。学校では集中して授業を受けることができていますが、家庭で自主的に学習する時間が少なく、主体的に取り組む学習が定着していない生徒への対応が課題である。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 学習に関心・意欲を持って取り組むことができるような、指導方法の工夫や教材の精選、学習機会の拡充を図る。全教職員で授業の巡回や入り込みなどの機会を増やし、学力の定着を図りたい。</p>	

取組内容②【基本的な方向 5 体力・運動能力向上のための取組の推進】		B
・毎回の体育の授業時間において準備運動を確実に行わせ、本校生徒の体力の向上に向けた取り組みの充実に取り組む。		
指標 ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において、本校生徒の柔軟性が昨年の全国平均との差より男女ともに0.5ポイント詰められるよう準備運動の充実に努める。		
取組の進捗状況の結果と分析		
②	体育の授業時間で毎回基礎体力向上に向けたトレーニングを実施している。全国体力・運動能力、運動習慣調査において、柔軟性を全国平均へ近づけるため、引き続き柔軟性を高める運動の充実に努める。	
次年度への改善点		
②	全国体力・運動能力、運動習慣調査において、柔軟性を含めた体力の要素全般を平均に近づける取り組みを実施したい。	
取組内容③【基本的な方向 5 健康教育の推進】		B
・健康的な生活ができるよう、健康管理の啓発を行うとともに受診率の向上に努める。		
指標 ・保健だよりや保健委員会を中心とした情報発信をおこなう。 ・検診ごとに受診勧告を配付し、未受診の場合は、1学期・2学期に1度ずつ保護者に連絡する。 ・保健委員会を中心とした熱中症の予防、こまめな手洗いや消毒液の使用を呼び掛ける。 ・感染症が流行しやすい冬季には、より感染症を予防できるよう教室換気を行い、換気調査を実施する。		
取組の進捗状況の結果と分析		
③	保健委員会活動を中心に、水分補給や暑さ指数の確認の呼びかけを行うことで、熱中症予防の意識を高めることができ、熱中症での重大事案はなかった。また、感染症は昨年と比べても1学期に大きな蔓延はなかった。冬季はますます気温や湿度が低くなるため、より一層感染症の拡大防止について保健だよりや委員会活動を中心に情報の発信と啓発を実施していく。保健委員会活動を中心に歯と口の健康を勧めていっているので、2学期以降は全校生徒の歯みがきの意識が変わるよう働きかける。	
次年度への改善点		
③	今年度は、健康課題について生徒保健委員会を中心に「歯と口の運動」などの新たな取り組みを実施することができた。感染症予防や日々の健康観察など行い、インフルエンザなどでの学級閉鎖はみられなかった。今後も個別の健康課題に合わせて、保健室の機能を生かした保健室経営を行いながら情報共有や情報交換を行い、校内外での関係職員や関係機関との連携を図る。また、個別の健康課題だけでなく集団としての健康課題について保健教育を強化する。	

取組内容④【基本的な方向 5 健康教育の推進】		B
・教員の指導のもと、生徒が主体的に美化活動を推進する。		
指標		
・毎日の清掃活動とで月一回の特別清掃区域の清掃を行う。		
・環境美化の意識を高めるために、整美委員会による清掃点検活動等を行う。		
取組の進捗状況の結果と分析		
④	全教職員、生徒の協力のもと校内の清掃美化をすすめることができた。校内の美化意識を高めるため集会で清掃点検活動の報告や清掃活動の呼びかけを行い、通常清掃区域に加え特別清掃区域の大清掃を実施した。整美委員会でポスターを作成し、各学年の廊下に掲示することで、校内美化への意識を高めた。感染症の予防や環境整備のためハンドソープ、トイレの消臭剤の補充をこまめに行っている。	
次年度への改善点		
④	全教職員、生徒の協力のもと校内の清掃美化をすすめることができた。集会で整美委員が清掃点検の活動報告を行った。各学年で清掃活動のポスター掲示などにより、積極的な協力を呼び掛け、生徒一人一人が校内の環境美化を意識し、実践できるように努めた。次年度は、ポスター掲示以外の方法でも清掃活動への協力を求めていく。	
取組内容⑤【基本的な方向 5 食育の推進】		B
・生徒の実態を踏まえ、家庭・地域と連携しながら、教育課程に基づいた食育の実践・推進を行うことにより、心身ともに生徒の育成を図る。		
指標		
・給食委員が中心となり、食に関する興味・関心を高めるようにする。		
・残菜ゼロをめざし、給食指導の充実を図る。		
・食育通信を年10回発行し、保護者・生徒に対し「食」に関する情報提供を行う。		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑤	給食委員会での活動や食育通信の発行は計画通り進んでいる。一方で、主食を中心に給食の残菜が目立つため、さらなる給食指導の充実を図りたい。	
次年度への改善点		
⑤	給食時間を中心に、食への興味・関心を高めるための指導を継続的に行うことができた。来年度も引き続き指導を行うとともに、生徒が主体となった取り組みも企画することで、さらなる知識の定着と給食の残食率低下につなげたい。	

大阪市立木津中学校 令和6（2024）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	
A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標（最重要目標3 学びを支える教育環境の充実）	達成状況
<p>①授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 （ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）</p> <p>②第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合が90%以上を継続する。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>③学校ホームページのアクセス数を、前年度比1.2倍以上にする。（令和5年度総アクセス数25,580・1日平均70.0）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況
取組内容①【基本的な方向6 ICTを活用した教育の推進】 ・一人一台端末の環境を生かし、個別最適化な学びと協働的な学びの実現に向けた取組の実施		B
指標 ・令和6年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を55%にする。（令和5年度47%）		
取組の進捗状況の結果と分析		
①	年度目標である「日々の生活のなかで学習端末を使っている割合」で「ほぼ毎日」と答えた生徒の割合は57パーセントであった。教科学習だけでなく、学級活動や総合的な学習の時間、朝学活や終学活で心の天気の入力を高めるなど、一人一台学習者用端末を自主学習・協働学習にも活用する。	
次年度への改善点		
①	情報化社会に適応するため、生徒だけでなく教職員も情報機器を積極的に使いたい。生徒が使える生成AIも導入されたので、全校あげて活用していきたい。	
取組内容②【基本的な方向7 働き方改革の推進】 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に基づく取組の効果検証		B
指標 ・ゆとりの日の設定を月2回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間は2日以上設定する。		
取組の進捗状況の結果と分析		
②	ゆとりの日を設定し、教職員の働き方に関して意識変革を促し、長時間勤務の解消に努めている。休業期間中に学校閉庁日を設定し、教職員がまとまった休暇を取りやすい環境を整える。 休憩時間の設定について、勤務の実態に応じて稼業日と長期休業期間で異なった時間設定を行っている。	
次年度への改善点		
②	冬季休業期間は、暦の関係で学校閉庁日を設定しなかったが、週休日の振り替えや年次休暇を効率よく取得できた。ゆとりの日を設定することで、教職員の働き方に関する意識を高めることができた。 行事や生徒対応な場合は勤務時間を変更し、実態に合わせた勤務時間の設定をしている。 生徒数の減少に伴い、教職員の数も減少傾向にある。業務負担の平均化を図り働きやすい環境を整える。	

取組内容③【基本的な方向 7 教員の資質向上】		B
指導の方法を工夫・改善し、学習意欲を高めるとともに基礎・基本の学力の定着をめざして、相互授業参観と研究授業を実施する。		
指標		
・年2回以上の相互授業参観と研究授業を実施する。		
取組の進捗状況の結果と分析		
③	今年度は学力向上支援チーム事業の一環で、若手教員が授業を行い、授業後にはスクールアドバイザーとの協議も行っている。また、メンターを中心とした若手教員研修会を定期的の実施し、若手教員をサポートできる体制を構築している。	
次年度への改善点		
③	一部では、授業参観や研究授業を実施しているが全体としての取り組みを企画する必要がある。	
取組内容④【基本的な方向 7 教育ブロックでの教育の推進】		B
学びサポーターを活用し、補充学習、放課後学習会、中3集中学習会、夏季休業中の補習などを実施する。		
指標		
・補充学習を5教科中心に月2回実施する。 ・放課後学習会や夏季休業中の学習会への参加率を向上させるとともに中3集中学習会を充実させる。		
取組の進捗状況の結果と分析		
④	放課後学習会や夏季休業中の補習は実施できた。また、中3集中学習会は例年通りに実施しているが、今後行事の精選が必要となってくる。	
次年度への改善点		
④	放課後学習会や個別の学習指導などの機会は確保できているが、基礎学力の定着のために、家庭学習の習慣化が大切。全校あげてその取り組みの基礎を作っていきたい。	
取組内容⑤【基本的な方向 8 学校図書館の活性化】		B
図書館機能・蔵書を充実し、読書習慣の定着を図る。ICT機器を活用し、調べ学習・話し合い活動等の学びを推進する。		
指標		
・図書館を原則毎日開館し、利用者数を増やす。蔵書調査・廃棄・充実を適正に行い、より時期やニーズに適した本を提供する。来年度の全国学力・学習状況調査において、同項目で肯定的な回答の割合を今年度より増加させる。		
取組の進捗状況の結果と分析		
⑤	昼休みの図書館開放は実施できており、図書委員会も役割を実行できるよう指導できている。今後は利用者を増やす工夫をしていく。	
次年度への改善点		
⑤	蔵書点検や生徒が興味を持てる本を置くなど、図書館設備・管理をする。生徒が本を手にとる機会を増やせるよう、学級文庫の配備なども検討していく。	

取組内容⑥【基本的な方向 9 地域学校協働活動の推進】		B
・小中連携アクションプランに基づき、「なにわ子ども人権文化祭」や「部活動体験」などで小中一貫教育を充実させ、連絡会や情報交換により、連携を密にする。		
指標		
・年2回以上学校行事で児童生徒の交流を図る。「連絡会」を実施し、教職員との交流を図る。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
⑥	「なにわ子ども人権文化祭」「部活動体験」をはじめとする小中連携の充実に努めた。また、小中連絡会、校種間連携研修、日々の児童・生徒情報交換などにより教員間の交流を行った。	
次年度への改善点		
⑥	今後も、小中の学習内容や児童・生徒の生活状況などの情報交換や交流の機会を通して、小中連携の充実を図りたい。「なにわ子ども人権文化祭」など、実施することはできたが、引き続きの検討が必要である。	

大阪市立木津中学校 令和6（2024）年度 運営に関する計画・自己評価【各教科】

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗を測る指標		達成状況
【国語】 生きる力をつけるために、読み取る力をつけ、理解したことや考えたことを表現できるようにする。語彙を増やし、読み書きができるような取り組みをする。 指標 漢字の練習やテストを单元ごとに1回は行う。その際に、小学校で学習した漢字も復習させ、自ら発表する力を育てる。		B
結果	・自ら発表する力では、古文の冒頭文の暗唱テストを行い、出席者全員が堂々と発表できた。漢字のプリント提出率は85%以上になり、漢字小テストにも成果が出始めている。	
改善点	漢字小テストや授業に取り組む姿勢、提出物の期限を守るなど基本的なことは、90%以上の生徒が達成できている。今後は、それらの基本的な知識を生かし、さらに読解力の向上に向けて、生徒一人一人の実態に合わせた学力向上のための声掛けを続けていきたい。	
【社会】 ただ暗記するのではなく、1つの課題に対して「なぜ」「どのようにしてこうなったのか」を社会的背景から思考できるような授業を実施する。また、丁寧な指導を心がけ、ICTを活用した授業展開を行い、社会がより身近なものであることを理解させる。3学年を通して知識の定着を図る 指標 ・アウトプットの時間を毎時間の始まりに繰り返し行う。 ・单元終了後の復習、授業内での復習を徹底する。 ・授業ではペア活動と一斉授業を繰り返し実施し、生徒の意見を引き出す授業を実施する。		B
結果	【指標に基づいた現状】 ・3学年とも授業内でアウトプットの時間を5分ほど設け、工夫して実践できている。 ・主に2年生で单元終了後に復習教材を活用できている。自信のない生徒は表だけを授業ファイルを見ながら自力で取り組ませている。 ・1, 3年生ではペア活動を実践できているが、2年生はまちまちである。頻度を減らし復習に充てる時間の確保が必要であると考えている。 【中間反省】 ・興味深い授業展開ができているのかをもう一度見直す必要がある。学習状況に応じて授業形態を変えざるを得ないことも考えながら今後努めたい。 ・ICT活用はもちろんのことだが、生成AIを活用した授業づくりを展開できればと考えている（3年では何度か活用した）。	
改善点	・ペア活動の課題を、学年のレベルに応じて少し変更する必要がある。もしくは单元ごとにペア活動を行うが単元の総まとめとして、ペア学習と位置づけて振り返りを行ってもいいのかなと感じた。 ・今年度は、トモリンクスの導入により生徒主体で生成AIを活用した授業を展開することができた。ほかの活用方法を考え、次年度に生かしたい。 ・学力の差が気になる。比較的学力が高くても、応用問題となるとできていないため、基礎基本をより徹底しながら、応用問題にも取り組ませしていきたい。	

【数学】		B
数学の基本となる基礎的な計算力を定着させ、数学に興味・関心をもち、自ら進んで学習する態度を養う。		
指標		
各学年とも週1回の補充時間と朝学習の充実、各定期テスト前に2時間以上は、基礎・基本の演習を繰り返し行う。		
結果	・全学年において、T・T等による体制で授業を実施した。授業中の演習時間を長く設定することや、前時の内容の小テストを実施したり、定期テストの前に学習内容の振り返りを行った結果、やや計算力の向上が見られた。今後も継続して基礎的・基本的な内容に重点を置いて授業を実践していく。	
改善点	・全学年で、チーム・ティーチングや特別支援学級在籍生徒に対する入り込みをしながら授業を実施した。ICT機器の活用や生徒の実態に合わせたきめ細かな支援や、テスト前に演習の時間を確保したり、小テストを継続して行うことで知識の定着を図り、少しずつ計算力の向上が見られた。家庭学習の定着ができていないという課題のある生徒も少なくない中、今後も生徒の実態に合わせた授業展開に取り組む。	
【理科】		B
生徒が観察・実験をすることで、生徒の興味関心をひきつける工夫をする。		
定期考査前には試験範囲の復習・演習をおこなう。そういった取り組みにより基礎学力の向上につなげる。		
指標		
実験については、1月に1回以上は取り組む(3年生3学期は除く)。復習・演習は、定期考査の前に3時間以上取り組む。		
結果	・実験に関しては1か月に1回以上実施できている。実験室での生徒実験以外にも教室での演示実験等も積極的に行い、生徒の理解が深まるように実施している。	
	・学習内容の復習の時間に関しては3時間以上の時間を確保しており、今後もこのペースを維持していきたい。	
改善点	生徒の興味、関心や学習に対する意欲を向上させるため、実験や観察を実施した。生物分野では生物や細胞の顕微鏡観察を行った。化学分野と物理分野では生徒実験を行った。生徒の積極的な取り組みが見られたので、今後も続けていきたい。また実験や観察では、器具の正しい使い方や安全面の指導も行った。	
	普段の授業の際に小テストの実施や、問題演習にとりくむ時間をもっている。特に計算問題や作図問題は時間をかけて指導している。しかし、生徒の苦手意識を払しょくできていないようにも感じる。次年度も引き続き、生徒が問題に慣れる機会を作っていきたい。	

【音楽】		B
主体的に学びに向かう姿勢を醸成するために、毎回の授業のめあてを提示し、振り返りをさせ、学習の理解の向上につなげる。		
指標 生徒に興味関心を持たせる授業を行うため、2種類以上の楽器を演奏する機会を全学年行う。 授業での復習や、グループワークで教え合いや意見交換をする授業を学期に3回以上実施する。		
結果	・授業では、毎回めあてや学習する内容を提示することで、見通しをもって授業を受けることができるように努めた。また、授業の最後に振り返る時間を設け、学習内容を理解できているか全体で確認を行った。 ・全学年2種類以上の楽器を演奏する機会を10月以降に実施予定である。 ・グループワークで教え合いや意見交換をする時間を設け、学習内容の定着を図った。引き続き実施していきたい。	
改善点	表現方法を工夫させるために歌唱や器楽演奏を充実させる必要がある。	
【美術】		B
毎回の授業の目標をよりわかりやすく設定し、生徒たちが目標に向かって取り組む意欲を高め、それぞれの表現力や技能の向上をより感じられるようにする。		
指標 毎回の授業後にその日の達成を振り返らせることにより、自分の成果を実感させる。作品が完成したら自分の作品について発表したり他の生徒と作品について語り合ったりすることで、創作する自信につながるようにし、意欲が高まるようにする。		
結果	毎回の授業の目標をよりわかりやすく設定し、生徒たちが目標に向かって取り組めるように、作品例や映像による制作過程を全体で観て各学年、完成に向けて制作をしている。完成作品は、文化祭で展示をし全体で鑑賞をする。	
改善点	・制作過程の時間配分についてももう少し明確に説明をする。	
【保体】		B
体育活動の基本となる体力の向上をめざし、各種目において技術を向上させる土台作りをする。また、生涯スポーツにつながる授業を展開する。		
指標 ・授業の最初にトレーニング（腹筋・背筋・腕立て）をおこない、3年次には全員が決められた回数（男子30回・女子20回）をこなせるようにする。 ・各種目の特性に応じてグループでの活動を取り入れ、生徒がお互いにアドバイスし合える環境をつくる。 ・体育委員が中心となり運営する体育行事を2回以上取り入れる。		
結果	・授業では、毎回基礎体力作りとしてトレーニングを実施している。また、筋力だけではなく、さまざまな運動能力を高めるトレーニングを実施し、動ける体づくりに向けて引き続き取り組んでいく。 ・グループ活動を通して、話し合う機会を多く取り入れるよう努めた。 ・体育委員が中心となって行った行事は体育大会と水泳大会は実施済みで、12月に球技大会を実施予定にしている。	
改善点	・柔軟性だけでなく、体力全般におけるベースアップを図る取り組みが必要である。	

【技家】		B
生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し想像する資質・能力を育成する。		
指標		
生きる力を身につけるために、各学年実習に力を入れ、その結果を2回以上展示や発表させる。班単位での活動やアクティブラーニングを増やし、意見交換させることで改善につなげていく。		
結果	<ul style="list-style-type: none">・授業では、多くの動画資料や実習を取り入れて体験的な学習を行い、興味・関心を高めることに努めた。作品について、お互いが評価し合い、意見交換も行った。・1年生は、作品の構想図・木材加工実習・Wordで木材加工の作品紹介カード制作、調理カード・刺し子のふきん製作・調理実習。2年生は、栽培実験実習・ダイナモチューブラジオ製作・学習端末でSDGsについて調べ学習、エコバック製作。3年生は、LEDを光らすプログラムを作りイルミネーションメッセージ・卒業記念マグカップのデザイン制作、絵本・フェルトのティッシュケースカバー製作で、2回以上展示や発表を行った。	
改善点	<ul style="list-style-type: none">・見方・考え方を働かせた深い学びをするために、学習用端末やICT機器を活用した授業展開や実習内容に取り組む。・総合的な言語活動を通じて、読解力を中心とした思考力・判断力・表現力を育成する。	
【英語】		B
4技能統合型の授業実践を通して発信力を高める。また、学習形態や課題を工夫し、表現活動を支える基本的な表現や語彙の定着を図る。		
指標		
<ul style="list-style-type: none">・授業において、生徒が英語を使って互いに意見を交流する機会を毎時間設ける。・各学年、学期に1回以上生徒が自分で調べたり、考えたりしたことをまとめ、発表する機会を設ける。・単元ごとに、暗唱テストや語彙・表現の小テストを実施する。		
結果	<ul style="list-style-type: none">・授業において、生徒が英語を使って互いに意見を交流する機会をできる限り設けてはいるが、基本的な語彙や文法の定着がないと難しい面もある。英語を使ってコミュニケーションする楽しさを知ってもらうためにも、より工夫して取り組んでいく。・各学年、学期に1回以上生徒が自分で調べたり、考えたりしたことをまとめ、発表する機会を設けている。かなりの手助けが必要な生徒もいるが、英語で自分の考えを伝えることができたという充実感を学習意欲につなげてもらいたいと考えている。・単元ごとに、暗唱テストや語彙・表現の小テストを実施し、基本的な語彙や文法の定着に努めている。	
改善点	<ul style="list-style-type: none">・単元ごとの暗唱、語彙、表現などの小テストを継続し、基礎的な文法や語彙を定着させる。・自分の考えを英語で表現する機会をさらに多く設ける。生徒が英語でコミュニケーションする楽しさを感じることで、学習意欲を高めるようサポートしていく。	